

受験番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

I.

問1.

- (a) 짐꾸도 (b) 놀라니 (c) 어쭙짜는
(d) 된날 (e) 우더르니

問2.

- [1]달랐다 [2]그러나 [3]꾸중
[4]멋쩍다

問3. [5]어디 가십니까?

問4.

①Kさんの体験は、社会生活において「一言」がどれほど重要な役割を果たすかということを示してくれる。特に、知り合いであれ、知らない間柄であれ、会う時と別れる時の一言のあいさつ言葉は、その人に対する印象の良し悪しを左右する分かれ道となる。

②「受」、「苦」の字を使いながらあいさつ言葉に替えることはどうしても気にかかる。名前も知らない有難い人が、雪道を掃いたり、地下道の入り口の清掃を引き受けてくれるときは、「お疲れ様です。」よりは、ただ「有難うございます。」という方がよりよくはないだろうか。

③親しくもない間柄で、他人がどこに行くかまで尋ねるのは失礼であり、聞き手もやはり「うん、あそこ。」のように行き先を明らかにしないのが通例であるため、お互い無意味なあいさつ言葉だという見解がある。

受験番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

II.

① 짧은 신사 둘이 완전히 영국 병사 모습을 하고 번쩍거리는 총을 메고 흰곰 같은 개 두 마리를 데리고 폐산속 깊은, 나뭇잎이 바스락거리는 곳을 이런 말을 하면서 걷고 있었습니다.

“아, 정말 이 동네 산은 영 아니야. 새도 짐승도 한 마리도 없잖아. 뭐든 상관 없으니까 얼른 탕탕 췌 보고 싶은데 말야.”

“사슴의 누런 옆구리쯤에 두세 발 쏘면 꽤 통쾌할 텐데. 빙글빙글 돌다가 그러다 털썩 쓰러질 텐데 말야.”

그곳은 꽤나 산속 깊은 곳이었습니다. 안내하던 전문 사냥꾼도 길을 잃은 듯 조금 갈팡대다가 어딘가로 가버렸을 정도의 산골짜기였습니다.

② 9 월 들어 새파란 하늘에서 햇벌이 짹짹 내리찍는 날이 계속되고 있다. 신호를 기다리며 햇벌을 피할 수 있는 것이 전혀 없는 교차로에 얼마 동안 서 있었더니 그것만으로 이마에서 땀이 뻘뻘 났다. 그래도 너무 더워서 아직 소매를 걷어붙여 완전히 드러난 팔뚝을 스쳐 지나가는 바람은 들뜨없이 가을 바람이다. 높은 하늘에 솔로 빗어놓은 듯 질려 있는 구름 두 줄기는 하얗게 투명해서 그림자가 전혀 없다. 계절이란 신비로워 올해같이 더위가 지독한 여름이라도 절기상 입추를 지날 무렵부터 바람만큼은 가을다운 소리와 감촉을 실어 보내주었다.

III.

① 이·쥬ング는腕時計を見た。6時20分。昨日3時15分前に乗ったから、ちょうど27時間と35分かかったわけだ。27時間と35分。そうだ。その間、쥬ングの頭の中はずっと、ある地の果てという想念だけでいっぱいになっているようであった。果ての果て、行き止まりの果て、そこからはもう一歩も出ていくことのできない、もう一歩だけでも踏み出せば、虚無の空間に落ちてしまう、そのような最後の点のようなものに쥬ングの意識は完全にとらわれているようであった。それは、乗客のほとんど全部が、終着駅である釜山を目的として行くという事実のためだけではなかった。

② 1970年代以降、韓国の古代国家形成に対する新しい見解が提示された。これは、1970年代以降、国家主義が澎湃として、国家に対する関心が高まり、社会科学の重要な対象になり、それに伴い、国家の原初形態と言える古代国家に対する関心が高まったためであった。しかし、韓国の古代国家形成に対する関心の高まりは、このような社会的雰囲気よりは、考古学的資料の新しい発掘と『三国史記』初期記録に対する信憑性、米国の人類学の古代国家形成理論の積極的受容という脈絡において成立した。

③ 17歳になった年、父から太鼓の作り方を学んだ。以後、曾祖父の時から続いている家業を今までしているので、相当な長い時間が流れた。私をはじめとした4兄弟は太鼓の製作をしている。

幼いころ、私は、父が趣味で働いていると思っていた。ところが、ある日、父が真剣な声で私に言った。

「おじいさんから学んだこの仕事を、もう伝授する時が来たようだなあ。4代目を継いでいけるかどうか、お前が選択しなさい。」

受験番号									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

IV.

①意味の説明：服は翼だ。いい衣服を着ると、その人まで偉く見える。馬子にも衣裳。

作文： 평소에 바지만 입던 내가 오랜만에 원피스를 입고 나갔더니 다들 “옷이 날개” 라며 예쁘다고 칭찬해 줬다.

②意味の説明：空が崩れても飛び出る穴はある。どんなに困難な状況でもそれを切り抜ける方策はある。

作文： 학교 가는 길에 지갑도 잃어버리고 하필 핸드폰도 집에 두고 오는 바람에 너무 막막해서 전철역 앞에 멍하니 서 있었는데 “하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 있다”더니 그때 마침 친구를 만나 돈도 빌리고 점심도 얻어 먹었다.